

株式会社ケイプラビジョン

生産性4倍と人の張り付き1/100を実現する 樹脂部品の高精度大量生産プロセス改革

ケイプラビジョンは半導体製造装置や産業機械、化学プラント向けなどに樹脂を切削加工した部品を生産する。樹脂の切削加工は金属の切削加工にはない、切粉（きりこ）が切れずにつながるという現象が生じる。導入した主軸移動形のCNC旋盤は切削工具の振動により切粉を短くし、課題を解決。同時に生産性も高めた。

会社概況

機能性持つ樹脂を加工

唐井利昌社長が2001年、36歳の時に有限会社ケイ・テクノを設立した。設立当初は工業用ホースなどを販売し、2003年に樹脂の切削加工も始め、徐々に仕事量が増えていった。自社で設備を導入するなど体制も強化し、現在は中核事業に育っている。2021年5月に株式会社化するのと同時に会社名もケイプラビジョンに変更した。

生産する樹脂部品はエンジニアリングプラスチックと呼ばれ、耐熱性や耐薬品、高強度、耐水などの機能性を持つ。顧客の要望ごとに樹脂の素材を選択し、板や棒状の樹脂をマシニングセンターや旋盤などの工作機械で切削加工する。顧客の業種は多様で、地域も東は関東から西は九州まで広域だ。



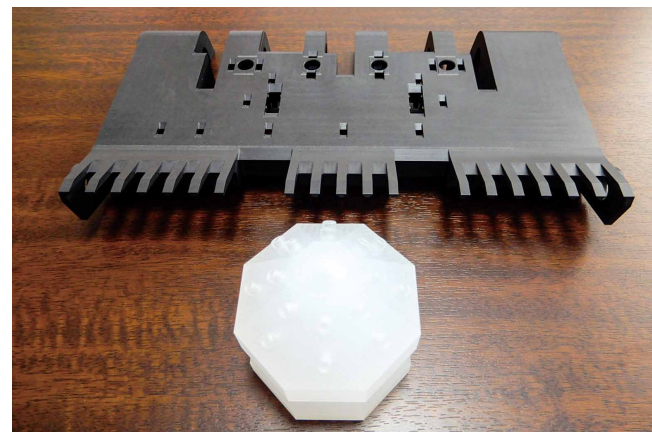
今年5月に社名をケイプラビジョンに変更

事業内容

工場勤務の半数が女性

岡山県倉敷市に本社とサテライトファクトリーを構える。サテライトファクトリーにはマシニングセンターや旋盤、複合機など複数の工作機械が並び、さまざまな形状の樹脂部品を切削加工する。樹脂を工具で切削するためバリが生じる。このバリを社員が手作業で取り除き、顧客へ出荷する。

社員数は合計13人で、このうち8人がサテライトファクトリーで働く。男性4人、女性4人と製造現場の中では女性比率が高い。バリを取り除く作業や検査は女性が担当する。唐井社長は「仕事が丁寧で、きれいな仕上がりだと顧客から褒められる」と説明する。パートタイム勤務の女性社員は、自身の都合に合わせて勤務時間を設定するという。



マシニングセンターなどで樹脂を切削加工する

事業成果

24時間稼働が可能に

ものづくり補助金を活用し、2020年に主軸台移動形のCNC旋盤を導入した。導入目的の一つは生産の自動化だ。樹脂を旋盤で切削加工する際、切粉が長い紐（ひも）状で生じ、加工中に加工物に絡むという問題があった。導入した旋盤は切削工具が振動することで切粉が短く切れる。社員が常時監視する必要がなくなり、「24時間稼働することも可能になった」（唐井社長）。

二つ目の目的は生産性の向上。導入したCNC旋盤は表面の加工と同時に裏面の加工ができ、従来機と比べて加工時間は半分になる。また主軸台移動機能により、切削工具を交換するロスタイムを短縮し、加工時間を短縮、生産性は4倍向上した。



導入した主軸台移動形のCNC旋盤

会社概要

設立	2001年	所在地	岡山県倉敷市北畝7丁目9番31-3号
資本金	300万円	TEL	086-436-7411
従業員数	13人	FAX	086-436-7412
売上高	1億2000万円(2021年4月期)	URL	https://kplavision.com



ワンポイント

販売拡大する半導体製造装置

ケイプラビジョンの主要顧客である半導体製造装置は年々、市場が拡大している。半導体業界の国際団体SEMIは2022年の半導体製造装置の世界販売額が1000億ドル（約11兆円）以上になると予測。2020年の販売額712億ドルから約40%増える見通しだ。半導体は新型コロナウイルス感染拡大後、巣ごもりやリモートワークにより、需要が急拡大した。半導体不足から自動車など減産を強いられる状況が生じた。

代表取締役
からい としまさ
唐井 利昌さん

